

2-6					
主題	地域の力を借りて「楽しみ」にフォーカスした、 もっと利用したくなるデイサービスへの取り組み				
副題	デイサービス稼働率 59.8%から 80%超えの成果				
キーワード 1	楽しみ	キーワード 2	稼働率	研究(実践)期間	24 ヶ月

法人名	社福) こうほうえん	事業所名	デイサービスセンターうきま幸朋苑
発表者(職種)	鈴木めぐみ(生活相談員)		
共同研究(実践)者	柏俣友美(生活相談員)		

電 話	03-5914-1333	FAX	03-5914-1334
-----	--------------	-----	--------------

事業所紹介	高齢化率 25%以上の北区にある特養・ショートステイ、その他保育園・就労継続支援 A 型・放課後等デイサービスも併設のデイサービスセンターである。要支援 1～要介護 5 の方を対象の 1 日型の一般デイサービスで、1 日定員が 30 名である。午前中に入浴や機能訓練を希望される方が多く、苑内にあるパン屋に買い物に行かれ、午後はレクリエーション活動に力を入れている。
-------	---

《1. 研究(実践)前の状況と課題》

当事業所では令和 6 年 3 月以降、入院・入所による利用終了が相次ぎ、新規利用者の減少も重なった。さらに 6 月から 7 月には疥癬感染が発生し、稼働率は一時 59.8%まで低下した。

この状況が続けば、うきま幸朋苑デイサービスが存続できなくなる危機的状況の再来である。令和元年にもコロナウイルス発生により稼働率が 60%台まで落ち込んだが、今回の状況は再び重大な危機と捉え、再び、稼働率を改善、向上させるために新たな取組を行った。

《2. 研究(実践)の目的ならびに仮説》

稼働率が減少している要因としては、課題①新規希望者からの問い合わせ減少、課題②現利用者の利用回数増加が進まない、という二点が明確となった。

そこで新規者獲得のために競合とのサービスを差別化し、「デイサービス」として事業所のサービスや売りを明確化させることが必要なのではないか。「楽しみを増やし、行きたくなるデイサービスをつくる」ことを方針とし、目指すことにした。

《3. 具体的な取り組みの内容》

・イベント回数を増加

平均 15 回を 20 回以上に増加

・イベントの内容を強化

おやつ作り、季節イベント、保育交流、正月営業

・地域の方の力を借りたレクの充実

美容レク各種、音楽レク各種、制作ワークショップ各種

・情報発信の強化

毎月のイベントのお知らせ、デイサービス概要 3 パターン、イベント写真での様子報告

- ・ご利用者主体のイベント実施
5 丁目カフェ

《4. 取り組みの結果》

- ・臨時利用が増加・新規獲得し、臨時利用でだけで利用稼働率が 4%向上、全体的な稼働率は令和 6 年度で最終 68%だったが、令和 7 年度で平均稼働率 81%まで上昇した。ケアマネジャーからの紹介数が回復・見学者数が増え、新規獲得にもつながった。イベントをきっかけに引きこもり生活から外出の一步を踏み出した方・外出機会が増えた利用者もいた
- ・従前に認識されていたショートステイニーズのある方の紹介に加え、主に外出の機会を失ってしまっている方の担当ケアマネジャーから紹介が増えたことで、ケアマネジャーの評価・認識も変化が見られた。
- ・利用者からは「楽しかった」「また参加したい」「手伝いたい」といった声が増え、満足度・意欲の向上が確認され、追加利用も増えた。
- ・イベントをきっかけに地域住民の参加意欲を高める効果も認められた。
- ・さらにデイサービスのみならず、ショートステイと特養のご利用者も参加ができたことで、デイサービス以外での満足度向上にもつながった。

《5. 考察、まとめ》

- ・今回の取り組みを通じて、サービス内容の可視化と対面での丁寧な情報提供がサービスを選ぶご本人・ご家族・紹介するケアマネジャーの信頼を得ることができ、強みと内容が伝わったことで、新規・臨時利用者の獲得につながったと考える。
- ・ご利用者を「楽しみ」という観点からのアセスメントが利用意欲を高め、新規ご利用者だけでなく、既存のご利用者も楽しみ、満足度が上がった。その結果稼働率も向上したと考える。
- ・イベントは単なる娯楽ではなく、外出してみようという意欲の第一歩の起爆剤となることで自信を失ってしまっている高齢者の引きこもりを防止し、またイベント参加することで利用者が役割を持ち、意欲の再燃や自己効力感を得る機会となることがわかった。
- ・稼働率改善からの始まりであったが、地域住民が有する知識や技能といった地域資源を活用したことで、多様な交流機会が創出され、利用者の社会参加や役割獲得に繋がったと考える。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究(実践)発表を行うにあたり、ご本人(ご家族)に口頭にて確認をし、本発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

《7. 参考文献》

- ・『エンパワメントの理論と技術に基づく共創型アクション・リサーチ』2021 安梅勅江 北大路書房
- ・『地域共生社会に向けたソーシャルワーカー社会福祉士による実践事例から』2018 日本社会福祉士編、中央法規出版

《8. 提案と発信》

「楽しみ」は決して「お遊び」ではなく、ご利用者の人生を彩り、心身機能を呼び覚ますためのアプローチとなることがわかった。「楽しさ」を地域のエネルギーに変え、社会的孤立をなくし、もっともっと行きたくなるデイサービスを目指していきたい。